

令和5年度第2回銚田市男女共同参画推進委員会協議結果まとめ

内 容

1 開会

2 委員長挨拶

3 議事

【報告事項】

(1) 令和5年度銚田市男女共同参画講演会について

※意見については、別紙のとおり。

【協議事項】

(1) 男女共同参画推進事業の他自治体事例について

⇒事務局案のとおり承認。令和6年度から、茨城県ダイバーシティ推進センター「ぼらりす」の「ぼらりす教室（出前講座）」を活用する。他自治体事例に関する意見や質問（会議後も受付可能）をまとめ、必要に応じてヒアリング等も検討していく。

※意見については、別紙のとおり。

(2) 第4次銚田市男女共同参画計画の進行管理について

⇒事務局案のとおり承認。令和5年度分の「施策・事業」の評価及び進行管理を令和6年度から実施するにあたり、次回の推進委員会にて、評価対象事業の中から担当課を呼び評価する4～5事業を決定する。

※意見については、別紙のとおり。

(3) 新聞折込み用チラシのデザイン案について

⇒事務局案のとおり承認。今回の推進委員会では出された意見も反映した上で、令和5年度のうちに1回、令和6年度に年2回のタイミングで新聞折込みを実施する。

※意見については、別紙のとおり。

(4) 特別企画案（フォトコンテスト、無意識の思い込みエピソード募集等）について

⇒事務局案のとおり承認。無意識の思い込みエピソード募集を実施する。

※意見については、別紙のとおり。

(5) その他

※意見については、別紙のとおり。

4 閉会

(1) 令和5年度銚田市男女共同参画講演会について

委員からの主な意見

- ・一般向け講演会のアンケート結果で、「講演会を通して家庭生活（家事・育児・介護等）に対してどのように感じましたか？」の問いに対して、「特に分担して行う必要はない」の回答が2回答あり、「講演会の満足度」についても「満足できない」の回答が2回答あるが、こうした意識の方もいるということ認識しなければならない。中学生向け講演会のアンケート結果でも、「講演会を通して、男女が共に輝く社会は実現できると思えましたか？」の問いに対して、「実現できない」と「わからない」の回答を合わせると41回答（18.2%）もあり、全体の約5分の1が分からないというのは、今後改善していかなければならない。
- ・中学生向け講演会の受講形態はどのようなものだったのか。質疑もできるようなオンライン形式だったのか。事前に読んでおいてもらう資料を何か配布したのか。
⇒「実現できない」や「わからない」といった回答をした生徒もいたが、概ね意欲的に聞いてもらったのではないかと考えている。受講形式については、パワーポイントの資料を画面に映しながら講師が説明し、最後に講師と生徒の質疑応答の時間も設けた。事前の配布資料については、パワーポイントの資料は配布していないが、講師プロフィールと銚田市の取組について記載した講演会次第の資料や、ライフデザインシート、以前作成した銚田市男女共同参画・女性活躍推進事業パンフレットを配布した。
- ・今の生徒はタブレットを1人1台持っているため、紙ベースの資料を配布せずに、タブレットを活用しながら、男女共同参画や銚田市の取組について紹介できるといいのでは。高校生向け講演会もあるため、可能であれば、データでの資料配信やタブレットを活用したワークシートの実施等も工夫してもらいたい。銚田市の学校教育の中では、現在どのような形で男女共同参画事業を進めているのか、分かる範囲で教えてもらいたい。
⇒受講形式については、今回もタブレットを使用しながら、ロイロノートアプリでのグループワークを実施した。銚田一高附属中学校のみ、ロイロノートアプリではなくクロームブックを使用しているため、紙ベースでのグループワークの実施となったが、全体を通してタブレットを活用した工夫を行っている。今後も、学校教育の中での男女共同参画事業を進めていきたい。特に、配布資料5ページの「主要施策1-2 教育の男女共同参画推進」の大きな4項目について、教育委員会も含めてこうした事業の取組を進めていきたい。

(1) 男女共同参画推進事業の他自治体事例について

委員からの主な意見

- ・パネルや男女共同参画情報誌等については、他自治体のように、図書館や公民館などに置いた方が皆さんに見てもらえる機会が増えると思う。また、今後は学校向けの取組等も進めた方がいいのでは。
⇒図書館に男女共同参画に関する資料等を置いていたが、パネル展示までは実施していなかつ

た。今後は、他自治体の事例も取り入れながら、パネル展示等を実施していきたい。また、銚田一高附属中学校での探究活動をはじめ、学校向けの取組等も検討していきたい。

(2) 第4次銚田市男女共同参画計画の進行管理について

委員からの主な意見

- ・事業評価シートは、それぞれの事業分を作成するのか。「主要施策Ⅲ-2 農林漁業や自営業等の取組推進」の「Ⅲ-2-1 農林漁業や自営業等における女性の労働に対する理解促進」の「②家族経営協定の締結促進」をはじめ、各審議会等への女性の参加促進等も図れるように、こうした内容について今後も推進委員会で協議していきたい。
⇒その通りである。説明資料も添付した上で、それぞれの事業分の事業評価シートを作成してもらう。
- ・評価対象事業のうち、ヒアリングまで必要としない事業についてはどうするのか。
⇒各課で進捗状況を作成した上で、推進委員会でも共有し、内容を確認してもらう。ヒアリングを実施する事業については、4～5事業程度を選択してもらう。
- ・「主要施策Ⅰ-2 教育の男女共同参画推進」の「Ⅰ-2-2 ジェンダー平等や多様性理解のための教職員研修の充実」の「①保育所(園)・認定こども園・幼稚園・学校における教職員研修の充実」について、保育所(園)等の現場側としては教職員研修を実施したことがないため、事業内容を把握できていない。進捗状況を作成する側と現場側で、事業内容について擦り合わせを行い、きちんと現場側も分かった上で評価していきたい。
- ・男女共同参画の分野は、効果がすぐに分かりにくく、難しい内容ではあるが、ずっと推進委員会で評価を行ってきた。今後も、意見を言いやすいような雰囲気を作りながら、推進委員会で協議・評価していきたい。
- ・施策一覧の中から評価対象事業を4～5事業程度を選択するとのことだが、施策一覧の中には色々と確認したい部分がある。「主要施策Ⅱ-2 子育て・介護の男女共同参画推進」の「Ⅱ-2-1 子育て支援体制及び環境の充実」や、「主要施策Ⅰ-2 教育の男女共同参画推進」の「Ⅰ-2-2 ジェンダー平等や多様性理解のための教職員研修の充実」、「Ⅰ-2-3 多文化共生教育の推進」については、色々と確認したい部分がある。特に教育の部分については、今後の銚田市の未来を背負っていく子どもたちにどうやって理解してもらえるか等が気になる。また、子育て支援体制及び環境が整っていない部分も、いつ改善されるのか等が気になるため、こうした部分も踏まえて評価していきたい。
- ・これまで通り、担当課の職員が推進委員会で事業の内容や達成状況について説明した上で、評価していけるといい。
- ・前回の評価でも、担当課の職員が推進委員会で事業の内容や達成状況について説明したが、達成できていない部分が目立ってしまっているような状況だった。現場側が事業内容を把握できていない場合もあるため、進捗状況を作成する側と現場側できちんと擦り合わせ・共有

を行ってもらい、評価できるといいのでは。

- ・推進委員会の中で、空き教室等を利用しながら、学校向けの取組やパネル展示用のパネル作成の取組ができないか。企業等向けのアンケートも実施し、その分析した結果をパネル展示に繋げるといった取組もできるといいのでは。提案レベルにはなるが、推進委員会の思いが表現できるような取組等を推進委員の皆さんと一緒にやっていけるといい。今後も、推進委員会でこうした意見交換を行っていきたい。

(3) 新聞折込み用チラシのデザイン案について

委員からの主な意見

- ・「名もなき家事」のメッセージが反映されていて、良いデザインになったと思う。年2回のタイミングで新聞折込みを実施し、2回目のチラシには感謝の言葉を投稿できるQRコードも追加するとのことだが、1回目と2回目でチラシの内容を変えながら実施できるといいのでは。1回目のチラシでは現状のまま説明部分を多くし、2回目のチラシでは説明部分を少し省いてイラストを入れる等、見やすい形に変更しながら実施できるといい。
- ⇒年2回のタイミングで実施する新聞折込みチラシについては、1回目と2回目でチラシの内容を見やすい形に変更しながら実施していく。
- ・予算面で可能であれば、国や県の補助金も活用しながら、「家事シェア」についての冷蔵庫の磁気シート等を作成し、全市民をターゲットにするのではなく、ピンポイントに絞って配布していくのもいいのでは。「家事シェア」について、家庭の中で目に見えるようなものを作っていけるといい。
- ⇒現在も、母子手帳交付時などにターゲットを絞り、「パパスイッチオン」のクリアファイルや「家族で家事シェア」のリーフレット等を配布し、家族全体で家事育児を協力してもらえよう意識啓発を図っている。今後も同様の取組を継続し、家庭内での意識啓発のきっかけづくりに繋げていきたい。
- ・新聞折込みで配布するとのことだが、新聞を取っていない家庭もあるため、効果を見込めるのか。多くの市民にきちんと届けることができるのか。
- ⇒カバー率を考えると、行政区の地区回覧よりも新聞折込みで配布した方が多くの市民に届けることができる。新聞折込みだけでなく、市の公式SNS等も活用しながら周知していく。
- ・現状のままのチラシ内容は、新聞折込み用に向いていないのでは。予算面で可能であれば、高齢者向けと子ども向け等にターゲットを分けてチラシ内容を作成し、配布した方がいいのでは。チラシのデザインについても、表面左下の文章の箇所を修正した方がいい。裏面上部のイラストとタイトルの箇所を修正した方がいい。レイアウト面で可能であれば、裏面中央のイラストの箇所を省いて調整した方が情報量も減って見やすくなるのでは。
- ⇒今回のチラシ内容は、若い世代の意識が変わってきているということを高齢世代にも分かってもらいたいといった目的もあり、1枚のチラシで全市民をターゲットにできるように作成

した。レイアウト面で可能な限り、文章やイラスト等のデザインを修正し、現状のままで全市民向けに新聞折込みを実施したい。

(4) 特別企画案（フォトコンテスト、無意識の思い込みエピソード募集等）について

委員からの主な意見

- ・他自治体でも同様のフォトコンテスト等の取組を実施していて、どの自治体も応募数が少ないことが分かった。応募数が少ない中での審査や評価は、やりにくいと感じる部分もある。そのため、フォトコンテストやエピソード募集等は実施せず、講演会等の他の取組に注力した方がいいのでは。
- ・フォトコンテストやエピソード募集等を実施しないという選択肢は無いのか。継続するのであれば、これまで実施していたフォトコンテストを継続するということになるのでは。
⇒応募数を増やす工夫はもちろんだが、少ない応募数の中でもフォトコンテストやエピソード募集等の取組を実施しているということを継続して周知し、意識啓発のきっかけづくりに繋げていきたい。
- ・フォトコンテストは顔が出てしまうことに抵抗があるが、エピソード募集は面白そうな企画である。ただ、マイナス面のエピソードが多くなると考えられるため、実名で募集してしまうと件数が集まりにくくなってしまうのでは。
⇒応募の際に実名までは必須とせず、公表もしない。エピソード紹介の際に年代や性別は公表するが、実名は記念品贈呈等の必要に応じて確認する程度で考えている。
- ・フォトコンテストやエピソード募集等は、今後のこういった形に繋げていくのか。申込期間が1ヶ月程度のため、その期間に合わせて市の広報紙等に掲載し、きちんと周知ができるようにしてほしい。エピソード募集のテーマを、短いキャッチフレーズにした方が目を引けるため、応募数も増えるのでは。継続して応募数が増えるように、推進委員の力も借りながら、周知方法を工夫していけるといい。
⇒募集した写真やエピソードを市の広報紙等で広く紹介・共有し、パネル展示等も検討しながら、意識を変えていくためのきっかけづくりに繋げていく。これまでも市内の施設等にもチラシを配布していたが、今後は推進委員の力も借りながら周知方法を工夫していきたい。

(5) その他

委員からの主な意見

- ・事前に会議資料を送付した方が、欠席した推進委員の意見も確認できるのでは。会議日程についても、早めに通知した方が、欠席の推進委員も減るのでは。
⇒会議日程を早めに通知し、会議資料についても事前に送付できるように準備していく。